

<対策のポイント>

世界的な課題として国際的な取組の気運が高まっている「限りある水資源の有効利用（かんがい効率・水生産性の向上）」の実現に向け、国連食糧農業機関（FAO）を通じて、水田農業に関する我が国の優れた知見・経験・技術の活用及び普及を促進します。

<政策目標>

アジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルとして打ち出し、国際ルールメイキングに参画（我が国を含むアジアモンスーン地域の水田農業の持続性の確保）（2件以上のプロジェクトを実施〔令和6年度まで〕）。

<事業の内容>

国際連合食糧農業機関（FAO）は、持続可能な開発目標（SDGs）のターゲット6.4に記載の「2030年までに、全セクターにおいて水の利用効率を大幅に改善」におけるモニタリング指標の担当国際機関であることから、水利用効率改善に関する情報・議論が集中する当該機関に専門家を派遣し、下記の取組を行います。

- ① FAO、水関係国際機関、国際会議等において、水利用効率に関する情報収集を行います。
- ② アジア・アフリカ地域におけるかんがい効率・水生産性向上に向けて、これまでに我が国の専門家の知見を活用して提案した改善策に基づき、我が国の技術を活用した技術の普及や人材育成の実証を行います。
- ③ 他の国際機関・ネットワーク（国際かんがい排水委員会（ICID）や国際水田・水環境ネットワーク（INWEPF）等）とも連携し、我が国の持続的な水田農業に関する知見や国際協力の成果について、国際会議等で発信して普及を図ります。

〔事業実施期間：令和4年度～令和6年度〕

<事業の流れ>



<事業イメージ>

背景・現状

2050年における世界人口を養うには、食料生産量を2005-2007年3カ年平均の1.6倍にすることが必要だが、世界の耕地面積は横ばいであり、またかんがい用水を増やす余地はほとんど無い。

➡ 水生産性の向上が必要であり、水田農業に関する我が国の優れた知見を活かした貢献が求められている。

SDGsターゲット6.4

- ・全セクターにおける水の利用効率の大幅な改善を掲げる
- ・FAOがモニタリング指標の担当機関

➢ 指標6.4.1：水利用効率
全ての経済活動による水利用を対象とし、経年変化を監視

我が国の専門家を派遣し、我が国の知見・技術を活用してかんがい効率・水生産性向上のための方策を実証



期待される効果

- 世界の食料安全保障及び途上国の経済成長へ貢献します。
- 我が国の持続的な水田農業に関する知見を国際会議等で発信することで、国際的な議論をリードし、世界の水田農業の発展を主導します。
- 我が国のかんがい効率・水生産性向上に係る知見・技術の活用を通じて、本邦技術の海外展開の促進に貢献します。



技術普及



国際会議への参画

【お問い合わせ先】（1）輸出・国際局国際地域課 （03-3502-5913）
（2）農村振興局設計課海外土地改良技術室 （03-3595-6339）